

2022年度第一回町田市保健所運営協議会 会議録要約

日 時：2022年6月30日（木） 19：00～20：15

場 所：市庁舎 3階3-1会議室

出席者：堤明純、堀内清華、中川種栄、調所 勝弘、林泉彦、長崎 敏宏、関根 克敏、
羽太 真由美、金崎 章、川畑 一隆、中川忠彦、
南大沢警察署と町田消防署は代理出席

※堀内 清華、調所 勝弘、長崎 敏宏、関根 克敏はWEBにて出席

※敬称略

要旨

発言者	内 容
<p>事務局</p> <p>副市長</p> <p>各委員</p> <p>事務局</p>	<p>1. 開会 協議会委員発令通知書机上配付のご案内</p> <p>(1) 副市長挨拶</p> <p>(2) 委員紹介及び会長選出 ・委員紹介（一言挨拶） ・会長選出 堤委員が会長、林委員が副会長に推薦され、就任。</p> <p>(3) 諮問 副市長が諮問書を読み上げ、会長に手渡す。</p> <p>保健所の管理職紹介及び、資料確認。</p>
<p>保健総務課係長</p> <p>会長</p> <p>委員A</p>	<p>2. 議事 (1) 保健医療意識調査について 保健医療意識調査について説明。</p> <p>今の事務局の説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p> <p>（参考資料2について質問）すこやか親子21等で作るように言われている計画は、健康づくり推進プランに入ってくるのか、それとも町</p>

	田市子どもマスタープランに入ってくるのかという位置づけになるのか疑問に思った。
保健予防課担当課長	すこやか親子21に関しては、保健医療計画の方にそのまま反映しているということではないが、いろいろな母子の事業の関係のところを今後計画には盛り込んでいくので、特に子どもマスタープランにそのまま入っているところではないと思う。
委員A	いろいろな計画に分散されて入っているという。
保健予防課担当課長	そのままというよりはいろいろな事業、母子の計画をいろいろなところで反映させている。
委員B	すこやか親子21委員等の関わりをしているが、具体的政策部分に関しては最終決定していないので、行政のする調査のどれがどれにあたるかは難しい状況ではないかと思うので、できればこういう情報をたくさん集めてすこやか親子21等に関する目標に関して漏れがないかチェックすることがわれわれの仕事かと考えている。
委員C	幸福度を10段階にされた理由を教えてください。10段階にすると採点する方も大変なのではないか。
保健総務課長	何段階にするかと考えたとき、5段階だとやや大きくりかなという印象があった。それ以上20段、30段となった時に10の区切りがいいかなというところで、案としている。
委員C	逆にあまりにも多いのではないかと思ったのでお聞きした。
会長	議論を活性化するために別添の資料の紹介をいただいた方がいいのではと副会長からの御助言いただきましたので、事務局の方から説明をお願いしたい。
保健総務課長	別添1（保健医療意識調査の調査票案）の内容について説明。
委員D	対象者ですが、18～79歳というと青年から後期高齢者、それを一緒くたに60年くらいの年代を3000人でこの年代の幅が大きいのかなと思う。それを一緒くたにして統計を取った時にどんな結果が出るのか、結果を考えるとその辺の発表もある程度年齢別にこれを細分化していただくような発表をした方がいいのかなと思う。また、18～79歳

保健総務課長	<p>を 3000 人にした理由が分からない。</p> <p>前回の調査時と同じ区分。ただ民法改正により成人の年齢が変わったため、18～79 歳とさせていただいた。集計の方は 20 代、30 代、40 代…と細分化して結果を出したいと考えている。</p> <p>前回調査時は 1500 人だったが、やや少ないというご指摘をいただいていたため、今回 3000 人と倍にした。</p>
委員 B	<p>先ほど A 委員からも質問があったように、成育基本法やすこやか親子 21 が目指している方向性のために地域で必要な情報を集めなければいけない。未就学児は、調査対象が保護者である</p> <p>が、これに回答する保護者というのはかなり意識の高い方であって、そこをしっかりと現状を把握できる工夫が必要でないかと思った。未就学児の方に関してはなかなか難しいところがあると思うが、例えば小学校であれば、学校の中で行われている学童対象の調査を併用したり流用したりして、学校医をやっているところでも食事の取り方のアンケートをやっている。例えば今の子ども食堂なんかがあるように、質問内容は青少年保護者のように朝食のことしか書いていないが、本当に問題になっているのは夕食が十分に取れていない子がどれくらいいるかで、そういうところを把握するためには、やはり学校で本人に、夕食でお腹いっぱい食べていますかというような調査をやらないといけないし、保護者に対してだけでは本当の実態をつかめないのではと感じた。この調査とは離れてしまうが、そういうのをやった方が有意義な調査になるかなと思った。未就学児の部分についても子ども自身では答えられないが、例えば保育園や幼稚園にも 2、3 の質問だけでも園側から答えをもらう等のアプローチをしないとかなり偏った内容のものになってしまうのではないかと思った。</p>
保健総務課担当課長	<p>今回の調査は実態調査としてはとるが、計画を作る段階に関しては、前回の計画でもそうだが、この調査だけで計画を作るわけではない。</p> <p>この他に乳児健診の場で歯科について聞いていたり、保護者のことを聞いていたりなど、複数の場で調査をしているデータも合わせて計画を作っていくことになるので、作成策定の段階ではもう少し幅広くデータを集めて、そこでご意見を頂きながら作っていきたいと思っている。</p>
委員 B	<p>その段階で利用する調査、アンケート等が具体的にどういうものがあるのかというのも一緒に検討して、協力ができるものはしたい。具体的なアンケート調査の内容や注意等を今後教えてもらえればと思う。</p>

委員 E	大麻、覚せい剤の問題だけでなく、巷では市販薬の乱用が問題になっている。またその状況を保護者が知らないこともある。本人に聞くべきではないか。
保健総務課長	青少年の保護者の方に調査票が届いたら、ご家庭の中で会話もしていただけたらと記載したい。市販薬の乱用につきましてはそういった視点がなかったため、反映したい。
委員 A	青少年になると、保護者に聞くより、子どもがどう悩み、不登校であった時にどうやって過ごしているとか居場所があるか等、青少年に特徴的な課題について、本人に聞くことを検討してもいいのかなど。未就学児保護者のたばこについては、妊娠中にたばこを吸っていたか。という問があるが、妊娠中の喫煙は減っていて、受動喫煙の方が多い。また、その家庭だけでなく他の場所での受動喫煙に関してというの聞いてみてもいいのかなとは思った。
保健総務課長	アンケートをお送りしたときに全部保護者の方が想像して書くのではなく、ご本人と会話して書いていただくことも案内文の中でお伝えしていきたい。受動喫煙のご意見につきましては、反映していきたいと考えている。
会長	煙草とアルコールに関してですが、20歳未満の方は聞かないとなっているが、聞いてもいいのではないかなど。実情では10代でも飲んでいる方もいるかもしれないし、町田でどのような状況なのかを見るというのも良いのではないか。また、問の選択肢についてだが、アルコールの種類が日本酒とビールだけだとイメージがつかない。今は他の飲料も飲まれているため、他の目安も付けると10代でも飲んでいる人がいるかもしれないというのが分かるかもしれないと思った。
保健総務課長	ご指摘の通りだと考える。年齢については、20歳未満はタバコとアルコールの問は回答不要の記載は削除し、お酒の種類については他の種類も追記して、わかりやすい形で考えたい。

<p>保健総務課担当 課長</p> <p>委員 B</p>	<p>3. 報告</p> <p>(1) これまでの新型コロナウイルス感染症の対応について 次第3 資料4について説明</p> <p>第5波からまだ1年経っていない。この時期は保健所のみなさんは地獄の日々が待っていた。本当に大変だった。過労死のラインの3倍位だったのではないか。保健所の方ももちろんだが、市役所全体として非常に本当にご尽力いただいた事に感謝する。</p>
	<p>4. 閉会</p>